

□コスト工学図書シリーズ !!

ズバリ !! 世間の水準、コストの標準が一目で解かる本

標準原価計算基準

Defact Cost Standard Table

■与那覇三男 著



発行/日本コストエンジニアリング株式会社

〒145-0071 東京都大田区田園調布2-29-12
TEL: 0120-20-4783 FAX: 0120-40-4783

標準原価計算基準



web特価 **84,000円**
(税別・送料サービス)
体裁A4版・811頁
定価92,000円

第一章 経営基本計画の立て方

1. 高付加価値経営論
2. 中長期経営計画の立て方
3. 短期経営計画の立て方
 - 1) 年度計画立案の基本的な考え方
 - 2) 収益計画策定のための必須条件
 - 3) 計画策定のための前提要件
 - 4) 短期経営基本計画の策定フロー
 - 5) 短期経営計画の取り組み方
4. 予算編成と標準原価設定

第二章 標準原価計算基準

1. 標準原価計算と予算統制
 - 1) 原価計算制度とその諸概念
 - 2) 製品の標準原価計算基準の考え方、捉え方
 - 3) 標準原価計算基準の設定法
2. 標準原価計算基準の構築
 1. 標準原価計算の理論武装
 - 1) 標準材料費計算基準論
 - 2) 標準時間計算基準論
 - 3) 加工費率計算基準論
 - 4) 標準管理間接費の算定技法
 2. ワークセンターの基準設定手順
 3. 材料費計算基準データベース
 - 1) 鉄鋼材料の選択基準データ
 - 2) 鋼材使用量の計算基準データ
 - 3) 樹脂材料の選択基準データ
 - 4) 樹脂材使用量の計算基準データ

本書は、製品原価としての正常価格を正確に計算するのに必要な科学的、統計的調査データを標準原価計算基準として制定された技術情報内容になっています。

第一章では、高付加価値経営を目指した経営目標を具体化するための中長期経営計画の立て方、短期部門別、機能別経営計画としての収益計画の立て方、財務（資金）計画の立て方・そ、販売計画の立て方、生産計画の立て方、操業度計画の立て方、調達・購買計画の立て方、設備投資計画の立て方、原価計画の立て方について、実践フォーマットを用いた経営計画の進め方を著してあります。

第二章では、標準原価計算を具体化するために、物づくり工程の科学的、統計的データをプレス板金加工、切削加工、樹脂成形加工の各業種について基準制定されている。源流設計段階で本章・標準原価計算基準（データベース）活用により、所定の工程設計が正確、迅速に可能となり、現場ラインへの標準原価（標準時間・標準工数）の投入が可能となり、工程製作目標管理（成果把握）が飛躍的に向上します。

第三章では、現場ラインへ流し込まれた標準原価と実際原価の把握から製造工程上の課題を定量的かつ工程箇所別に識別することが可能なことから、原価責任の所在や原因を明らかにする仕組みとコンピュータを活用した推進事例を著してあります。

第四章では、経営計画の執行結果としての業績管理についてである。業績管理推進のための管理会計を導入または整備したときの組織のあり方、部門責任制や業績評価の損益ルール制定法など具体的な経営指標評価事例について著してあります。

4. 工程設計技術基準データベース
 - 1) 工法選択基準データ
 - 2) 設備機械選択技術基準データ
 - 3) 金型・工具選択技術基準データ
 - 4) 加工工程決定技術基準データ
 - 5) 加工条件設定技術基準データ
 - 6) 加工工程別時間算定理論式と援用基準データ

3. 標準原価計算基準の運用
 1. 職種別標準コストテーブルの活用法
 2. プレス金型コストテーブルの活用法
 3. 工程設計書の作成要領
 - 1). プレス加工工程設計の実際
 - 2). 切削加工工程設計の実際
 - 3). 樹脂成形工程設計の実際
 4. 標準原価計算のシステム化と実行例
 - 1). 標準原価計算技術情報システム化
(プレス板金実行例)
(切削加工実行例)
(樹脂成形実行例)
 - 2). 工程別標準原価指図書の出方

第三章 原価管理の取り組み方

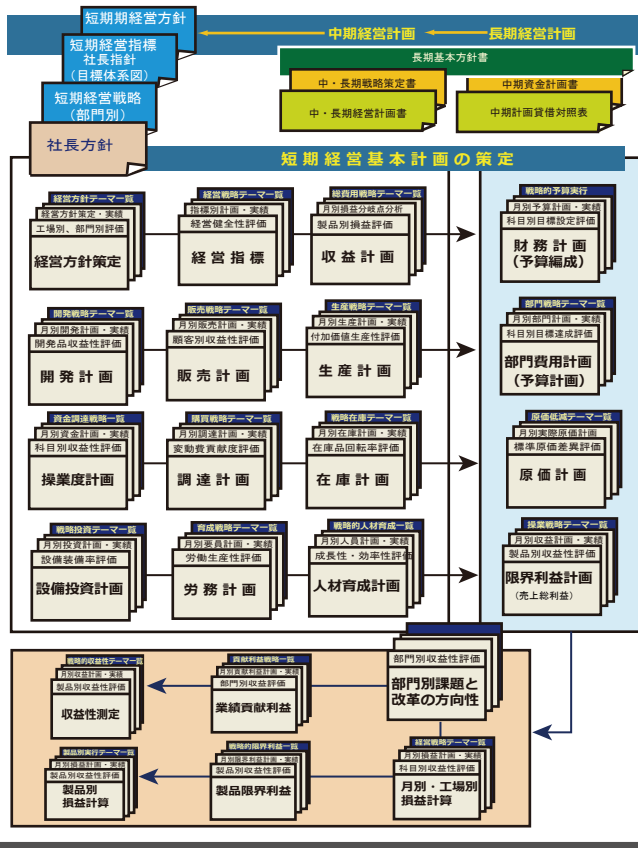
1. 部門別計画遂行へ向けた最善化活動（P F M）
2. 標準原価管理の進め方
3. 標準原価の現業ライン投入
 - 1) 原価管理の目的と考え方
 - 2) 直接原価管理の進め方
 - 3) 直接原価計算の展開法
 - 4) 経営計画と標準原価計算基準
 - 5) 標準原価の種類と定義
4. 標準原価管理（コストマネージメント）の実例
5. 製品の損益性分析評価法
 - 1) 限界利益と付加価値の関係
 - 2) 製品別総限界利益の算定法
 - 3) 製品別収益性分析の手順
 - 4) 製品別収益性分析諸表

第四章 管理会計と業績評価法

1. 業績評価の目的とねらい
2. 業績評価が可能な組織のあり方
3. 業績評価が可能な体制のあり方
4. 業績管理会計の導入定着とシステム化
5. 正しい業績評価の原理原則とルール制定法
6. 業績管理指標と業績評価基準
7. 目標設定と業績評価のしかた
8. 部門別執行管理のしかた
9. 製品別損益評価のしかた

ページ内容の抜粋例

4) 短期経営基本計画の策定フロー



2. 標準原価計算基準の構築手順

開発設計段階で製品別の正しいコスト見積り作業と評価の基本は、理路整然とした客観的なコスト構築基準の獲得がすべてである。コスト見積り技術が組織的になかなか定着しない理由の一つに体系だったコスト構築技術が得られていないケースが挙げられる。製造現場や生産技術部門で長年にわたり固有の技術を習得、見積りもる図面を手にして、所定の形状仕様をどのように加工するのかという専門技術は持っている。理路整然としたコスト構築理論を持ち合わせていないばかりに説得ある客観的なコスト評価ができないなどということも多々ある。本節では、直接的には世界市場に通用する高精度コスト水準をいかに入手するか、間接的には製品原価ないし部品コストが本来、理論的にはどうあるべきか等々、技術的要素を工学手法を適用した具体化法について述べる。

